

『サイバー生活手帖 ネットの知恵と情報倫理』



矢野 直明 著
ISBN : 4-535-58435-4
定価: 本体 1,800 円 + 税
日本評論社

これからの人類に求められるサイバーリテラシー
1億総ライター時代を生き抜くために必要な判断力

山川 健(ジャーナリスト)

まだ、いわゆるインターネット犯罪が珍しかった1990年代後半、私は大手新聞社でその種の事件を専門に取材して新聞社サイトに記事を書いていた。ある時編集部で、逮捕されて記事になった男から電話がかかってきた。「不起訴になった。記事に残っている実名を削除してほしい」。似た主旨の電話は、データベース担当の部署にもあった。「罪を償って出所した。逮捕の記事を消してくれ」。新聞社としての公式見解は「それはできない」だった。

著者は、サイバーリテラシーがこれからの人類にとっては不可欠との認識で、その3原則として、サイバー空間には制約がない、サイバー空間は忘れな

い、サイバー空間は「個」をあぶり出すを理解する必要性を説いている。私が経験した容疑者からの電話は、を象徴する出来事だ。

著者も私と同じ新聞記者だった。それだけに、ネットによるジャーナリズムに関する考察が随所に登場する。ブログの普及によって1億総ライター・編集者となったが、記事の信頼性はあいまい。情報の確かさを自分で判断しなければならない、などと指摘する。

最新のサイバー事件の分析もなされている。中でもWinny 開発者逮捕に関しては「ソフト開発者を著作権法違反幫助で逮捕するという乱暴なやり方が進行している」と気持ち良い。

『アマゾン・ドット・コム成功の舞台裏 元トップエディターが語るアマゾンの軌跡』

会社設立時にヘッドハンティングされたエディターの回顧録
決して順風満帆ではなかった成功までの道のり

森山 和道(サイエンスライター)

いまや世界最大のショップとなったamazon。立ち上がったばかりの状態から、IPOとITバブルの急上昇・急降下を経て、どのように変わっていったのか。その軌跡をトップページの編集も手がけていたエディターが回顧する。内容はつづさというよりも、個人の私生活の変化も踏まえながら、あくまで個人の目線で描かれている。筆致は時にシニカルだが、基本的には淡々としている。

96年、妻と娘を抱えた食えないライターだった著者はamazonに入社。契約年俸は4万4000ドルと「おもちゃのお金みたい」にしか思えなかったストックオプション。当時の会社はアットホームな雰囲気だったという。家族持ちには決して高

くない収入。そしてたまたま利益とモラルの狭間で悩むことはあっても、コンテンツを重視していたamazonで働くことは楽しかったようだ。

97年、IPO。amazon社員は突然億万長者になる。だが2000年には株価が急降下する。当時のamazonは「虫の息」だったという。そして会社のほうも数字を重視し始める。顧客ごとのカスタマイズの名の下に推し進められる機械化、カスタマレビューの重視に従い、編集部のリストラが始まる……。現状を見ると、人間の編集者にデータマイニングが圧倒的な勝利を収めたように見える。本書は、その様を目の当たりにした人間の少しセンチメンタルな回顧録である。



ジェームズ・マーカス 著/星睦 訳
ISBN : 4-8443-2126-9
定価: 本体 1,800 円 + 税
インプレス

本でしか得られない知識がある。
今月の、お勧め、お役立ち、元気になる書籍。

『ハニーネットプロジェクト 汝の敵を知れ』



ハニーネットプロジェクト 著
園田 道夫 監訳
(株)ドキュメントシステム 訳
ISBN : 4-8399-1648-9
定価 : 6,200 円 + 税
毎日コミュニケーションズ

ネットワーク攻撃と戦うハニーネットプロジェクトの全貌を紹介
アタッカーの心理分析にまでおよぶネットワークセキュリティーの技の集大成

斉藤 彰男(編集者、SE)

本書のテーマである「ハニーボット」とは、ネットワーク攻撃者をおびき寄せ、その挙動を記録するための「おとり」システムである。攻撃者には、ハニーボットであることを気付かせることなく行動を詳細に記録し、侵入者が他サイトを攻撃した際には実際に危害を及ぼさないようにそれを阻止するわけだ。

この本を執筆したハニーネットプロジェクトは1999年に活動を始めた非営利団体であり、ハニーボットの開発・運営をしながら、ネットワーク攻撃者の情報を収集・分析している。

本書は3部構成となっており、第1部「ハニーネット」では、ハニーボットネットワークを構築するためのテクノロジーが、

第2部「分析」では、ハニーネットで収集した情報の分析方法が解説されている。

しかしながら本書で最も圧巻なのは、第3部「敵」だ。ハニーネットプロジェクトの活動の成果がここに披露されている。攻撃者の社会構造と動機、攻撃プログラム誕生・生涯・消滅、攻撃者のプロフィールは、本書のサブタイトル「汝の敵を知れ」の集大成であり、続く攻撃手法の紹介は、ウィンドウズ、リナックス、ソラリスの各環境について解説されている。その記述は、さながら「アタック観察日記」といった感じでノンフィクション的面白さも味わうことができる。ネットワークセキュリティーに関心ある人には必読の書だ。

『ソーシャル・ネットワーク・マーケティング』

顧客リレーションマネジメントの新時代を拓く
ソーシャル・ネットワークのマーケティング

野村 隆昌(コンサルタント)

古くはクリック&モルタル、近年ではEメールマーケティングなど、インターネットの普及に伴うマーケティングの話題も日々変化してきた。本書は、最新のCRMの変革である企業向けソーシャルネットワーク(ソーシャルネットワーキングサービス、SNS)の活用を、事例を挙げて多方面から分析する佳書である。

SNSは、一言でいえば、紹介者同士のインターネット社会だ。生活者向けSNSとして著名なmixiに参加している人も多いだろう。

SNSは、本質的に2つの特徴を持つ。1つは非常に日本的な「紹介者制度」である。京都のビジネスパーソンらは、互いに、紹介を通じて結びつき、一見さんお

断り、という京都的コミュニティーを形成している。「あの人の紹介だから」という有機的な身元保証制度である。

もう1つの側面はコミュニティーに特徴がある。目的を共有する人を束ねることで、知識の蓄積と専門性を深め、コミュニティーとしての魅力を高める。特に、無責任な匿名掲示板コミュニティーとは異なり、信頼できる情報や経験が蓄積される。

近年、Eメールマーケティングに限界を感じ、コミュニティーの形成が望まれてきた。そこにソーシャルネットワークがうまく合致した、という状況である。

本書の分析は、幅広く企業経営者、企画、マーケティング担当者に役立つことだろう。



山崎 秀夫 著
ISBN : 4-7973-3105-4
定価 : 本体 1,800 円 + 税
ソフトバンクパブリッシング



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp